

PRIMULA CUNEIFORIA BULLETIN

Primula 94



Primula

プリムラ山の会

発行所: 東京都八王子市散田町3-38-6B primula.ac@gmail.com <http://primula.mizunodesign.com> プリムラ山の会(通巻94号) 2014年6月4日発行 発行人: 大坪邦久 編集/デザイン: mizunodesign.com

Primula 94

c o n t e n t s

In a Shot	岡孝雄	2
94 号のお題：THE 山靴（山靴の思い出）		3
ハヶ岳・南峰リッジ	初鹿 裕康	5
御坂芦川虹沢千波ノ滝・アイスクライミング	佐藤 正俊	6
積雪期のマイナールートも楽しいワン U^ I ^U		
その 15 ブドー尾根からヨセ沢ノ頭の巻	初鹿 裕康	8
積雪期のマイナールートも楽しいワン U^ I ^U		
その 16 クロガネノ頭 東尾根の巻	初鹿 裕康	10
山スキー 2 連ちゃん	市瀬 江利子	12
会津城郭朝日山	たいら まり	15
小川山クライミング	佐藤 正俊	17
なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記	水野 奈保美	19
山行一覧（1）2014 年 1 月 11 日～3 月 9 日		21
山行一覧（2）2014 年 3 月 9 日～4 月 24 日		22
山行一覧（3）2014 年 4 月 25 日～5 月 18 日		23
編後記ですよ		24



初冬のノ倉

岡 孝雄

この所、高い山に登っての撮影が苦手になっている。鹿島槍を撮るなら遠見尾根に勝る個所はないのだが、無精をして八方尾根からにした。それも八方池山荘泊（ロープウエーを利用し歩いて20歩）。天気予報通り入山2日目の朝は快晴。3時に歩き始め前日偵察した地点で三脚をセットする。日の出前の蒼い刻から撮影し始め、すっかり春めいた柔らかい陽差しの雪稜達。白岳へ突き上げる優雅な雪稜。急峻な鹿島の北壁。陽の変化に合わせ構図と露出を変え撮影を続けると1時間がアツという間にすぎ

る。絵になりすぎる鹿島槍は作者の個性を出しにくい、ついその美しさに負けてしまい、いつも同じように撮影してしまう。何とかしなければと思うのだが、これが実力と言うものなのかもしれない。充実の時間を過ごすと腹が減ってきた。ポットのコーヒーとブドウパンをほおぼる。これまた幸せの時。

現在登山という行為をしていないが、若い頃に対する郷愁だけが浮かんでくる。この光景を前にして登行意欲が湧かない人はいないだろう。こんなことを思いながら撮影した。

1: ヨーチンに団扇

靴の思い出といえば、ヨーチンに団扇。足は靴に合す物と言われた。オーダーメイドで頼んでも、なかなか合わないの、山から帰ってくると、靴擦れ。ヨーチン塗って、団扇で扇いだものでした。たまに膿んでし

まっていた靴下とくっ付いてしまっていたことも。革靴は帰ってきたら干して KIWI の防水 WAX を素手で塗りこんだりしてました。山に行くのも結構大変だった時代。靴には愛着はあったけど、消耗品。(H. H.)

5: お試し山行

岩登りを始めて2年目。社会人の山岳会に入り、プリムラでいうところのお試し山行は、3月の雪の三ツ峠のクライミングであった。山靴のなかった私は、長靴で参加した。会の先輩もびっくりしたであろうが、なんとか登った。その後先輩は、見込みがあると思ったのか、山靴を譲ってくれ(ガリビエールのスーパーガイド、登りや

すいのだが革質が良くなく、雪山では、いつも靴下がびしょびしょになる)、その年のゴールデンウィークには、穂高の滝谷の出合から4尾根への登攀に連れて行ってもらえた。それまで近場のゲレンデばかりだったので、一気に世界が広がった気がした。(H. S.)

3:片っ端から

特に思いつかないので、片っ端から家にある靴を思い浮かべてみた。冬靴は捨てられないプラブーツを含めて3足ある。夏の登山靴1足。アプローチ用のゴアのスニー

カー1足。山スキー靴1足。ゲレンデスキー靴1足。沢靴1足。クライミングシューズ1足。マラソンシューズ1足。合計10足。押し入れが一杯になるわけだ。(E.I.)

2:クライミングシューズの流れ

クライミングシューズの流れ: HANWAG (古すぎて名前がわかんない) → ニンジャ (ボリエール: 買った時には岡さんに「水野には履きこなせねえと思う」と真顔で言われた) → X-Ray (5.10) → アナサジベルクロ (5.10: 本山くんのお古、のあと1足) → ミウラ (スポルティバ: 現在4足目くらいサイズ違いもあり) → レーザー (ボリエール: 森さんのお古) → ドミネーター (スカルパ: たっちゃんのお古) → 青サジ (アナサジベルクロのレディース版: 紛失) → モカシム (5.10: クラック用に買った) → 5X (5.10: モカシムがダメになってやらかいやつ第2段) → ソリューション (ス

ポルティバ: やらかいやつ第3段) → ミウラベルクロ (スポルティバ: 3足目) → カタナレースアップ (スポルティバ: 最新) … 誰々のお古とは、買った方がいいがサイズが小さいというので、格安で引き取ったもの。と、長い遍歴はあるけど、今はスラブはミウラ、フェイス・クラックはカタナレース (マイブームはしばらく続きそう) インドアはソリューションという感じ。いやーいっぱい買ったね〜 (しかも、1足毎にうんちく垂れれるよ)。買う人はもっと買うみたいだね。今んとこ、スポルティバばんざい。ってとこかな。(M野: つか山靴じゃねーし)

4: はじめての山靴は

初めての山靴 (トレッキングシューズ) は、父に買ってもらった。一緒に登山道具店に行き、店員と相談しながら試し履き。靴を履いてようやく山屋らしくなった気がした。この初めての靴は、幸運にも私の足に

ぴったりで履きつぶしてしまった。いまは、特に冬靴のサイズがなくてひと苦労。買うのにも実用性最重視で、靴をもとにした山への期待感はすっかりなくなってしまった。(M.T.)

Primula 94

八ヶ岳・南峰リッジ

・・・初鹿 裕康

日程：2014年1月25日

山域：南八ヶ岳・赤岳

メンバー：小堀、初鹿

【コースタイム】

1/25 曇時々晴 美濃戸口(6:53)－美濃戸(7:50)

－行者小屋(9:56)(10:34)－取付(12:06)(12:39)

－赤岳(14:22)(14:34)－行者小屋(15:17)

(15:39)－美濃戸(16:45)－美濃戸口(17:30)

朝一で行って登って帰ってきて、須玉の山小屋で宴会コース。ルートはショルダー右にしたが、取付までの赤岳沢がやばいかなあ、ということでエスケープルートにしておいた南峰リッジへ。

南峰リッジは一度登っているはずだが、いまいち記憶に欠ける。小堀さんも「良くわからないんだよねえ」と言っていた。行者小屋までは長いが、美濃戸で一度休んだだけで到着。結構気温は低く手がかじかんでいる。

シングルロープで行くことにして、ロープ1本とわかんはデポして行く。途中の赤岳沢にトレースはなかった。文三郎の登山道を登って行くと、分岐の標識が見えるところあたりから、主稜にトラバースしているトレースがあった。さらに登っていくと、標識手前から右に登っていく先行パーティがいる。南峰リッジかな。

我々は、中岳分岐の標識まで行ってから赤岳方面へ多少登り、左に折り返してピラミッド状の岩場のあたりで取付を探す。ピトンも見当たらないので先行パーティの方まで行くと、岩を確保支点にして、

ルンゼを挟んだ向こうのリッジを登攀中。手前のリッジを見渡すと残置ピトンがあった。多分これが正規の取付か。

1P目 25m 小堀 真直ぐリッジ上を登って行き、右上して上部灌木で切る。

2P目 25m 初鹿 小石が乗っている岩を、岩を落とさないようにおっぺしながら登り。灌木で切る。

3P目 40m 小堀 リッジを5m程進み右上して抜ける?と思いきや、戻って左に下りてルンゼ状のところに入って直上(ダブルロープだったら右上したそうだった)。

4P目 50m 雪があればたぶんノーザイルのところを直上し、頂上の看板まで伸ばそうと頑張るが届かず、灌木で切る。

5P目 15m 小堀 もうザイルはいらないけど頂上まで伸ばして終了。結構高度感があり、残置ピトンも数本あったので、多分このルートが正しいのかな? 昔登ったつもりでいた所とはずいぶんルートが違うのかな??

頂上から文三郎を下って、あっという間に美濃戸口に着いた。やっぱり頂上まで登って来ると充実するね。

まさにクラシックな日本のアルパインルートと言う感じでした。隣の女性二人のパーティからも「楽しいですねえ」とお声がかかったし。やっぱり、アルパインは楽しい。

Primula 94

御坂芦川虻沢千波ノ滝・アイスクライミング

・・・佐藤 正俊



「千波ノ滝」全景

日時：2014年1月25日（土）
山域：富士五湖方面・御坂芦川
メンバー：佐藤、他5名

〔行程〕 25日 東京発→千波ノ滝登攀→帰京

1. 千波ノ滝の登攀

都連盟救助隊のO隊長のお誘いで、6名、3組で千波ノ滝登攀のチャンスが訪れた。

千波ノ滝は落差約120m、幅約40mの超巨大な水瀑であり氷結する単独の滝では国内最大級と言わ

れている。標高千mにも満たない御坂山塊の北側に何故このような巨大な水瀑が出現するのか、本当に不思議な滝である。

また氷結時期を捉えるのが難しく、O隊長と湯川アイスクライミングの帰りに発達状況を確認し、今回のアタックを迎える事が出来た。ブログを調べると、冷蔵庫位の氷が落下したとか、終末期には巨大な滝が一気に崩れ落ちるなど、あまりにも巨大なため常に崩壊の危険性を内在している。

当日は好天に恵まれ芦川の駅を過ぎ車で山道を遡っていく。寒気が緩んで先週ほど周辺の沢



「千波ノ滝」1ピッチ目



「千波ノ滝」1ピッチ目

筋は凍結していない。路肩に車を止め虹沢左岸の急傾斜の難路で大汗をかき小1時間で千波ノ滝に到着する。

4名と3名の2組の先行パーティが登攀中なのでゆっくり休憩を取り、ついでに昼食も済ませる。2時間以上も待ち時間があったので、買ったばかりのモノポイントアイゼン「スティンガー」の足慣らしで滝の縁を水平にトラバースしてみる。中々感触がイイ。

千波ノ滝は取付き上部に大穴があって地肌の岩壁が露出しており、正午が近づくにつれシャワーのように水が流れ始める。先行パーティが落とす氷片は上空ではまるで花びらの様にヒラヒラと舞っているが、地面に激突する際の速度は半端ではない。滝が大き過ぎて上空では氷片の落下速度が遅い様に錯覚するのだ。こんな恐ろしい氷瀑を登って本当に大丈夫なのかと不安がよぎる。

ようやく先行パーティが3ピッチ目を終え、最初にYさんとIさんのパーティが1組目で取付き、次にTさんと佐藤が続く、O隊長とSさんは最後の3組目となる。

一番傾斜が急な1ピッチ目はTさんがリードし、慎重に左上して40m程でピッチを切る。氷の表面は大分解け流水でビショビショだが、分厚い氷瀑本体はまだまだ頑強のようだ。2ピッチ目の緩斜面は佐藤がリードし40m弱右上してピッチを切る。3ピッチ目の直上する急斜面も20m程佐藤がリードし、ビレー中のYさんの隣でピッチを切る。

最後の4ピッチ目はTさんにお任せし2時間ほどで終了点に到達する。

事前の不安感とは全く裏腹に、思っていた以上に快適で面白いアイスクライミングだった。やはりモノポイントアイゼンの威力は絶大で、O隊長のアドバイスに従って購入した選択は大正解だったようだ。

3組目のO隊長の到着を待って下降を開始する。最初は普通の山道を辿るが滝の登り口へは、またしても急峻なルンゼ下降の難路となる。途中からは落石だらけでボロボロの草付き斜面となり、止むを得ず懸垂下降となる。途中には漆黒で100キロを超えるような巨大なイノシシが滑落してご臨終となっていた。

2. 帰路の楽しみ

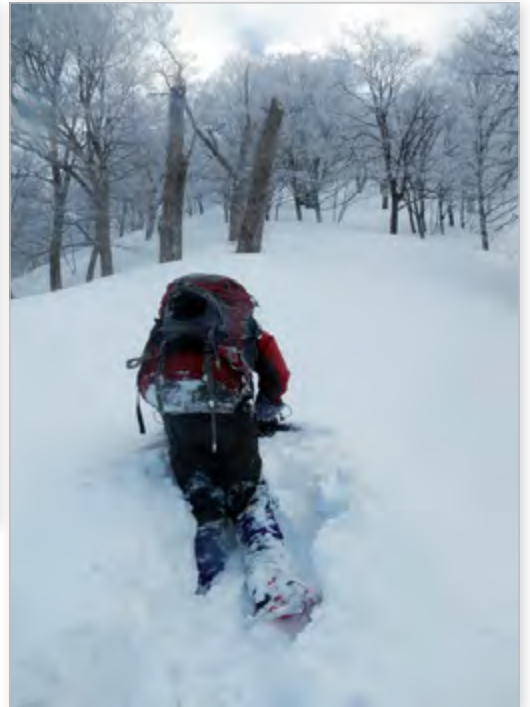
最近このメンバーの帰路は「とんかつ」が定番になっている。今回も入浴後は竜王「かつ玄」に直行する。注文の大和豚とんかつが来るまですり鉢でゴマを擦って心を鎮め、好みで甘口、辛口のソースを掛けキャベツもお代わりして幸せなひと時を満喫する。

Yさんからは翌週の摩利支天大滝アイスクライミングを誘われるが、磐城青葉岩登りの予定があったため、無念の不参加。

しかしながら難度も高い千波ノ滝を、しかも初挑戦で完登出来た事は本当に幸運の賜物かもしれない。そして、これまでのアイスクライミングの中でも非常に印象深い至福の1本となった。

Primula 94

積雪期のマイナールートも楽しいワン U^ェ^U その 15 ブドー尾根からヨセ沢ノ頭の巻 . . . 初鹿 裕康



ラッセルする平ちゃん

日程：2014年3月21日～23日
山域：上越・大源太山
メンバー：初鹿、平

【コースタイム】

3/21 雪 登山口(9:54)ーゴルフ場(10:18)(10:35)
ー稜線(11:22)(12:30)ー1065mB.P(13:38)
3/22 曇時々晴 (7:33)ー第2キャンプ(9:54)
(10:10)ー稜線(12:27)ーヨセ沢ノ頭(12:46)
(13:03)ー第2キャンプB.P(13:46)
3/23 曇/雪 (8:27)ーゴルフ場
(10:23)ー登山口(11:21)

去年クロガネノ頭から見た大源太山の容姿が忘れがたく、今回は大源太山のマイナールートを探す。コブ岩尾根も良さそうだが、沢筋を長く登らないといけないので、今年の雪の量だとちょっと考えてしまう。他を探しているうちにブドー尾根と言うマイナーな尾根を見つける。

稜線に出てからが、ちょっと難所っぽいのが、何とかなりそう。3連休なのでそのまま縦走して、清水峠から朝日岳、白毛門への縦走と組み合わせる案を立てる。

3連休の天候はいまいちだが、行って見なければわからないので越後湯沢駅へ。かなり結構な雪が降っている中、支度を整えてタクシーで旭原へ。今年は大源太山登山口までの除雪となっていた。雪が多いねえ。

湿った降雪の中、わかんを履いてゴルフ場の

レストハウスへと雪上車のキャタピラの跡を踏みしめながら進む。レストハウスの先、適当なところからブドー尾根へと急登。ラッセルとなるが、思いのほか湿雪なのでラッセルと言う感じではなく登って行ける。尾根上は結構雪庇が出ていて、たまにドカンと雪庇を落としながら進む。まあ、下がそれほど切れていないので落ちて怪我はしないかなあ。適当なところでテントを張る。



ちなみに身体はびしょびしょである。寒い。いろんな物が凍りつく。結構危険。テントの中でようやくひと段落。

翌、夜中から結構雪が降り 30cm 位積もっている。天気はたまに陽が差す感じで、このまま気合で行けば、大源太山に登れるか??しかし新雪 30cm のラッセルは結構進まないもんだ。途中また天気が悪くなったところで、いいテン場があったので、荷物を置いてアタックをかける事にする。

急な斜面を何とか稜線に出て一番高いところへ。ここがヨセ沢ノ頭。天気はまたガスって来る。ここから下って大源太に登り返すまでは結構かかるだろうと、新しいテン場に戻って宴会??

翌朝、目覚めたらまたまた 10cm 位の積雪。ミルフィーユみたいな雪の断層だなこりゃ。下りもラッセル三昧。結構上の方で、ブドー尾根の斜面をゴルフ場の下って来てしまったので、ゴルフ場内が長かった。この時期のこの積雪は結構やばい感じでした。

帰りの新幹線の中から荒川を渡るとき、走っ



ラッセルする平ちゃん

ている人が見えた。今日は荒川マラソンだった。また出ようかなフルマラソン。

Primula 94

積雪期のマイナールートも楽しいワン U^I^U その16 クログネノ頭 東尾根の巻

・・・初鹿 裕康

日程：2014年4月19日～20日

山域：上越・足拍子岳

メンバー：初鹿、平

【コースタイム】

4/19 曇 旭原(9:49)－取付(11:51)

(12:11)－B.P (17:53)18:39

4/20 曇/晴 (7:09)－クログネノ頭(8:32)

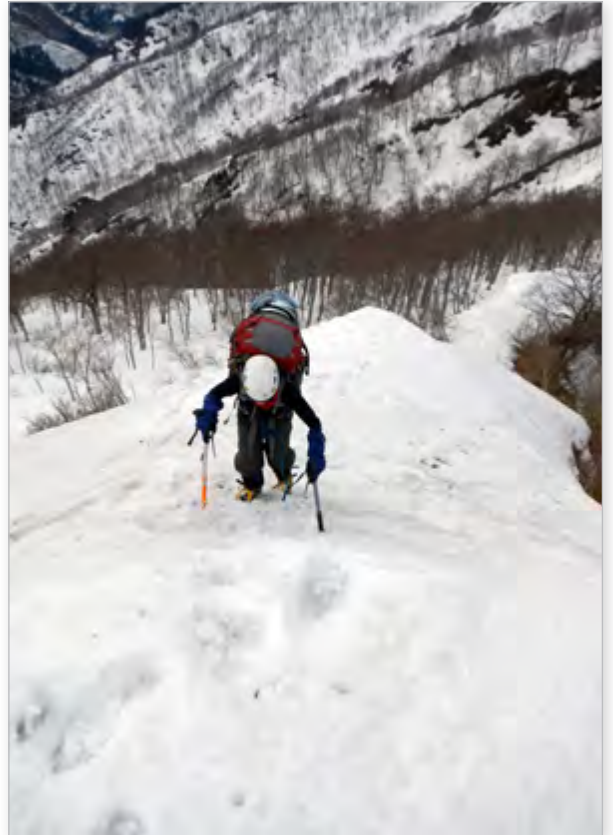
(9:12)－南西尾根P(10:40)－蓬沢出合(12:10)

(12:34)－ゲート(13:38)－土樽(14:20)

先週の様子では、まだまだ上越方面は雪がありそうだったので、久しぶりにクログネノ頭に行くことにする。ずいぶん昔、北尾根に来て結構痛い目にあった記憶がある。その時は最終的な下山が0時ちょっと前だった(下山遅れぎりぎりセーフ)。

大源太山登山口までタクシーで行く。ここで一旦コマノカミ方面に向かってしまうが、車道をちょっと戻って確認。集落の脇から足拍子川に沿っていると思われる地図の実線の道らしき所を上流に向かって、つぼ足で歩いていく。雪に埋まっているので時折道がわからなくなったりするし、なぜかいきなりガレ場になり、後ろ向きで下ったりしながら進んでいくと、前回に来たときにベースキャンプを張った大きな木の所に出た。ここが東尾根の取付になる。

中尾根は雪が全く着いていない様子。ここまでは平なので結構しっかりと雪が残っていたが、尾根上はどれ位付いているのだろうか。最初の急な雪壁を登ると、すぐに藪(木) 漕ぎになる。途中岩場が出ている急な斜面に出る。雪はやっぱり付



ラッセルする平ちゃん

いていないが、ここを越してしまうと戻ってくるのは結構厳しい感じだ。どうするか？一瞬迷うが、行くしかないでしょう。

岩場を左に避けながら、雪との間をうまく乗っ越して行くと、上の藪に到着。懸垂して帰るのも、もう大変だから上に抜けるしかないが、果たしてこの先どうなっているのだろう。こうなるとモチベーションはあがらざるをえない。

周りに雪はあるものの相変わらずの藪(木)



南西尾根にのって、やっと一安心

漕ぎ。岩場のナイフリッジも出てくるが、岩はアイゼンが刺さりそうな岩なので、なんなく登る。雪があれば素敵なナイフリッジなのかもしれない。平ちゃんは結構藪に苦労しているご様子。たまに間が開いてしまうので、助けにいける範囲内で先に進む。

上を見ると雪が大分出てきている感じだが、行ってみるとちょこっとしか残ってなかったりする。さすがに稜線上にはあるだろうが。結構時間も押してきたので、テントが張れる所を探して先行すると、何とか雪の付いているスペースを見つける。ここを軽く整地してテントを張って、平ちゃんのご様子を見にヘッデンを用意して下降。

平ちゃんは最後のシャクナゲの藪で苦労をしていたので、ザックを先に上げてやり。ここを抜けるのに40分位かかってしまったようだ。1人で適当にテントを張ったものの、結構快適なテン場。夜景も美しい。でも、明日ガスるといやだな。

翌日、テントを開けると晴れ。やった。大

分薄くなった藪を漕いで、気温が上がればずり落ちそうな残雪を選んで登っていくとクログネノ頭に到着。ここから見る足拍子は黒い。

一応予定通り足拍子方面に向かうがやっぱ藪。これはかなり時間がかかるだろうと言うことで、エスケープルートとしてあった、コマノカミ南西尾根を下ることにする。去年は雪の崩壊が激しくて尾根通しには下れず、南西尾根の降り口のピークから、大分下部をトラバースしたのだが、平ちゃんは、トラバースが苦手らしいので、降り口のピークまで様子を見に登り返す。

今年は雪が大分無いので、このピークから藪を漕いで下れる。途中ちょっとトラバースもあったが、なんてことなく南西尾根に乗ることが出来た。ここからはかなり楽しく雪の上をあっと言う間に下り、蓬沢へ。ここからは雪の下に出かかった、ふきのとうを発掘しながらのんびりと土樽駅に向かったのです。

Primula 94

山スキー 2 連ちゃん

・・・市瀬 江利子

私の大好きな冬山シーズンですが、
やはり子供は連れて行けません。今回は
子供を置いて、2 回ほど山スキーに行ってきました。

下のほうは雪解けのいい感じの沢が出ています

2014 年 4 月 29 日 鹿俣山 (1637m)

メンバー: 初鹿、市瀬

コースタイム: リフト終点 (9:30) --- 鹿俣山 (10:00-
10:45) --- グレンデ駐車場 (12:30 頃?)

前日、仕事の後、保育園へ子供をお迎えに行き、
実家へ移動。午前五時に子供が起きないよう、そっ
と出発し、待ち合わせ場所へ。今回の場所は朝出て、



鹿俣山山頂



こんな感じのブナ林です。右端に小さくはっちゃん



夕方までには東京に戻って来られる場所ということ
で、GW シーズンまでスキー場が運営している鹿俣
山へ行ってきました。リフト 2 本を使いグレンデトッ
プからわずか 30 分で頂上へ着いてしまう山でした
が、晴れていれば見晴らしも良いようです。が、こ
の日はあいにくの曇りで谷川連峰も雲の中でした。

滑りのほうは、いったんグレンデトップまで戻り、
グレンデを横切り、一番右端のグレンデをオフピス
テで滑る感じです。広大なブナの樹林帯が素

晴らしく、春の息吹を感じながら木々の間をのんびり滑ることができました。下部のほうは既にところどころ沢が出ていた為、トラバースが出来ず、下のほうへ移動した結果、道路へ出てしまいました。道路脇をなんとか雪をつないで滑ってみたのですが、途中で断念。スキーを担いで少し道路を歩く羽目になりました。その後、ゲレンデへ向けて斜面を10分程登ると駐車場の端っこへ辿り着けました。

もう少し雪があればスムーズにトラバースできたかもしれません。1週遅かったかな。ブナ林は気持ちの良いコースでした。



富士見岳山頂

ことになり、ちょっと罪悪感。まあ、でも、たまには、いいよね、と自分に言い聞かせて出発。

2014 年 5 月 17 日 乗鞍岳隣の富士見岳 (2817m)

メンバー：北原、初鹿、市瀬
コースタイム：三本滝(9:55)＝位ヶ原山荘(10:22-10:38)---コル上部(12:30<富士見岳@13:00>-13:30)---登り返し---位ヶ原山荘(14:40-15:34)＝三本滝(15:56)



登り始め。綺麗な斜面です

前回の山スキーの後、今シーズンやっぱりもう一本滑りたくなり、無理やり時間を作って乗鞍に行ってきました。面倒を見てくれるはずのお父さんが直前で仕事が入ってしまい、保育園へ預けて行く

朝は北原さんに4時半に家まで迎えに来てもらうという超贅沢な山行でした。この時期のバスは観光センター発7時半と9時40分しかない為、9時40分を目指して行くことに。途中、朝食を取りつつ、余裕があったので三本滝のパーキングまで行き9時55分発のバスに乗る。あわよくば、三本滝まで滑れるかと思って行ったところ、残念ながら、ぜんぜん雪は残っていませんでした。

さて、バスに乗り、位ヶ原山荘からシールを付けて登り始める。帰りのバスは1時半のあとは3時34分が最終なので、それまでに乗鞍岳まで行けるのか、結構ぎりぎりの時間である。乗鞍岳へは尾根を乗越して左にルート取るか、富士見岳のコルまで登って、稜線を行くかの方法があるが、時間もわからないので、富士見岳のコルまで登って行くことにした。天気も良く最高の景色だ。途中からは急な斜面になり、斜めにルートを取りながらジグザグに登って行く。

最後の斜面はさらに急な斜面で、しかもザラメが滑り、ジグザグに行くのも厳しい。切り返しをどこでとるか、一步一步慎重に登って行く。ス



左端が乗鞍岳です



登り返す二人

キーを外したほうが早いかなあと、途中思うが、この傾斜で外すのは、これまた大変なので、なんとか頑張って登る。先に着いていた二人が昼食を食べながら待っていた。

ここまで、約 2 時間。正面に乗鞍岳が見えるが、かなり遠いし、風も強いので、あっさり諦めて、ここから滑ることに。とりあえず、板を外して富士見岳山頂まで約 10 分。風が強いためすぐに退散する。

さて、滑り出しは急で、ちょっとおっかなびっくりだったが、その後は快適な斜面を気持ちよく滑る。特に中盤は雪もざらめで最高のコンディションでした。

バスまでの時間があるので、二人は登り返し、私は少し熱があり体調が万全でなかった為、斜面に座りのんびり雪山を眺めて待つことに。雪山は



真正面の斜面を滑ってきました！

やっぱりいいなあ、来てよかった、としみじみ思う瞬間でした。

ちなみに、帰りに寄った乗鞍高原温泉の湯けむり館(720 円) は白濁の硫黄泉で広くて空いていてとても良かったです。

Primula 94

会津城郭朝日山

・・・たいら まり

日程：2014年5月3日～5日

山域：南会津

メンバー：平+1

5月3日 晴れのち曇り

09:30 鳥井戸橋～14:00 小手沢山
～15:30 恵羅窪山手前(幕)

前夜のうちに出発したものの連休前の渋滞。いつまでも進まず、道の駅湯西川に着いたのは深夜2時近く。睡眠不足を補うべく、明るくなってから起床。3週間前には、会津駒へ向かった会津高原尾瀬口から会津駒登山口へ向かうバス道路を分け、鳥井戸橋へ。

深瀬沢を簡易な橋で渡り、右岸の踏み跡をちょっと辿るが、伊南川を南下し尾根をまわり込む道に誘い込まれ、標高を上げられない。地形図を見ながら、落ち葉の斜面を強引に上がって、稜線に続く道に合流した。右手に見えるのは幽ノ沢か。印があるところをみると歩かれていないわけでもないらしい。

それからは、なんとなく踏み跡。雪はいつまで経っても現れなかったが、1200mを越えたあたりから、ようやく切れずに続くようになる。雪は締まっていて歩きやすいが、一面のブナ林も藪に阻まれる。左手に山毛櫨沢山が見えると、視界が広がった。山毛櫨沢山は見送って反対側の小手沢山へ向う。ここからは楽しい尾根歩き。穏やかな稜線を、森の中を歩くように、てくてく歩く。多少のアップダウンは気にならない。

いくつかのピークは磁石を確認しながら方向



穏やかなブナ林歩き

転換。尾根が丸いので視界がなかったらわかりにくいかもしれない。テント場は、いたるところにある。15時過ぎると、雲がわいて、急に風が冷たくなる。テントを張りたいところだが、明日の行程を考え、少しでも先に進もうと急ぐ。雪が降ってきたところで諦めて、テント場整地。大木の下をスコップで平にし、テントを張る。時間もあるので野菜を切ったり、前菜をつくったりしてゆっくり夕飯の準備。湿気の多い雪はすぐ水になる。カレー鍋の夕飯を済ませ、明日の晴天を期待して就寝。

5月4日 晴れ

07:00 幕営地～恵羅窪山～10:30
城郭朝日山～13:30 幕営地

雪はすっかりやんで朝から晴れ。鳥の声で目が覚める。きょうは、テントを置いて城郭朝日山を往復するだけ。お茶をして、ラーメンで朝食。身じまいを整え、アイゼンをつけて出発。

引き続きなだらかな尾根歩き。荷物も軽く、森は明るく、写真を撮りながら進む。城郭朝



城郭朝日山が見えてきた



我が家

日山が見えてくると、上り下りの傾斜が急になった。手前には、黒々としたピーク。あそこは巻いてゆけるのか。傾斜が急なぶん、段々雪が切れて藪がうるさくなる。黒いピークは、左側の雪面をトラバースして避け、急な斜面を一気に上がり、稜線にのると、山頂がすぐそこに。視界は開け、陽が降り注ぎ暑い。山頂に着くと、景色を見ながら、ゆっくりと休憩。春山の暖かさを存分に味わった。

十分休んでからもときた道を引き返す。なるべく藪を避けて、雪をつないで歩く。尾根が丸くなり、雪が安定してくるとそれほどの登り下りはない。見渡す限り誰もいない山並みを眺めながら、穏やかに歩く。樹林があるってすばらしい。

時々、方角を確認しながら、一路我が家へ。荷物を下ろすと、夕飯までひと休み。テントの周りを歩きながら、ゆっくり景色を眺めた。テントの中からは、昼寝している人の鼾が聞こえる。平和だ。日も暮れようとするころ、夕飯を作りはじめる。お酒を飲みながら食事。マッシュポテトとトマトスープスパゲティ。ラジオの天気予報を気にしながら就寝。

5月5日 曇りのち雨

06:00幕営地～07:30山毛櫛沢山～10:30鳥井戸橋

天気が崩れるというので早めに起床。朝食を済ませると、テント撤収にかかる。テントを入れた

ザックは、来るときより軽くなったはずだが容量を増している。しばらくは稜線歩き。少し曇りながらも、遠くまで見渡せる。これで最後かと思うと名残惜しい。明日天気が回復するなら、もっと行く?と問いかけるが、一人でゆけば、と返され諦めた。本当は、この後、山櫛沢山を越えて、坪入山、窓明山、と縦走するはずだったのだ。

なだらかながら下り気味の稜線は、来たときよりも進みが早い。山毛櫛沢山との分岐に着くと、荷物を置いて、山頂を往復することにした。山頂までは30分もかからない。木の間を縫って山頂にたどり着くと、証拠写真を撮って下り。荷物を回収して、鳥井戸橋へ続く尾根を下る。

こちらの稜線には、所々テープがあるので道を確認できる。それでも、下りなのでわかりにくく迷うような箇所があった。登るとき、折れた枝を目印に無理やり立て直してきたのが役に立つ。

迷った出だしだが、踏み跡を辿るように進めば、あっさり橋の袂に出た。道沿いにはかたくりがたくさん咲いていた。

温泉に寄って、ついでに道の駅で寄り道を繰り返し、ゆっくり帰京。山行中誰にも会わない静かな森歩きが出来て、(私だけ) 大いに満足だった。今度は、会津朝日岳から会津駒を歩いてみたい。

Primula 94

小川山クライミング

・・・佐藤 正俊

日程：2014年5月10日(土)～11日(日)

山域：奥秩父・小川山

メンバー：平、小田、佐藤

〔行程〕 10日～11日 廻目平クライミング、テント泊

1.10日 土曜日

オダ・マリコンビと佐藤で今シーズン初めての小川山クライミングに向かう。平邸の武蔵浦和から小田邸まで60分を見込んでいたが、40分で到着したのでセブンイレブンでトイレを借り、マッタリと時間つぶし。定時に小田君をピックアップし廻目平に7時半頃到着する。快晴だが今日は少し風が強く肌寒い。

出だしは左岸スラブの「トムと一緒に10a」で全員が足慣らし。外岩半年振りには平ちゃんは意外と調子が良さそう。それにしても全くヒト気がなく空いている。これなら有名ルートも独占出来ると、勇躍渡渉し父岩の「小川山物語5.9」に到着。父岩にも誰もいない。佐藤がリードでロープを張り、二人はトップロープで長～い壁登りを愉しむ。

これなら「レギュラー」と「卒業試験」もやっちゃえとリバーサイドを藪漕ぎし、マラ岩に到着。生憎「卒業試験」は取付き中だったので、佐

藤が「川上小唄5.8」を登りマラ岩の上を越えて「レギュラー10c」にトップロープをセットする。

佐藤はトップロープながらノーテンションでトップアウト!!!余りの嬉しさでチョット感激してしまう。小田君は1回目は離陸出来なかったが、2回目は平ちゃんのコアラムーブを参考にテンションを懸けながらも根性のトップアウト。平ちゃんは飽くまで無理する事無くマイペースで中間点までの岩の感触を愉しんだ様子。

そろそろ夕刻も近くなったので大急ぎでギアを撤収して下山し、川上パークで入浴、ナナーズで買出し、そして「ふじもと」で美味しい焼肉を堪能してテントに。ふじもと(20時閉店)、ナナーズ(21時閉店)とも閉店ぎりぎりの飛び込みで、身も心も大満腹の1日目が終了する。

2.11日 日曜日

前夜の水野テントのお呼ばれ(23時にやむなく撤退)の疲れか、翌朝は7時半頃に起床。今日は風も無く暑そうだ。カレー飯、レタスサラダ、豆腐の味噌汁でユツタリした朝食を愉しみ、ドリップコーヒーは各自2杯づつ満喫。その結果、出発は



「卒業試験」の小田

何と 10 時に!!!チョットゆっくりし過ぎか!!!

岩場がすいている事を願い一目散にマラ岩上部の「卒業試験」へ。取り付いてるパーティの 1 人はカメラことプロガイドの菊地さんだった。「センター試験 (5.8)」でアップをしつつ菊地ガイドの解説に聞き耳を立てる。

いよいよ「卒業試験 (10b)」にチャレンジ、リードの佐藤は余裕でオンサイト。トップロープで小田、平も順調にトップアウトする。最後に小田君はリードで再挑戦。右に左に丹念なルート取りで見事 4 ピン目にクリップ。ハラハラドキドキのギャラリも、ここで一安心。「卒業試験」初リードの奮戦と雄叫び、お見事でした。

昼食後はソラマメスラブ。「やわらかソラマメ (5.8)」 「ソラマメ (5.9)」にトップロープを張って順次チャレンジ。佐藤がリードで墜落した「ソラマメ」を平ちゃんは見事にトップアウト。意欲満々の小田君は残念ながら足の痛みで無念のリタイア。

最後に佐藤が「ソラマメハンゲ (10c)」にチャレンジ。ムーブが判らず 3 ピン目で 1 テンションとなるが、何となく外岩 10b ~ c レベルがオンサイト圏



「卒業試験」の平

内に近づいた確信を得て顔がほころぶ。ウッシッシ〜!!!。

2 日目も午後 6 時近くまでクライミングを満喫して帰路に就く。

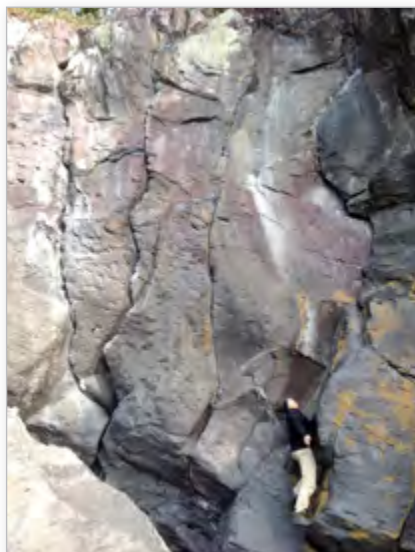
入浴と夕食の時間調整が功を奏し小仏峠の渋滞も解消。最後まで幸運に恵まれたクライミング三昧の小川山は大満足で無事終了となりました。

なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記。

— 2月から5月末までいってしまえ! —

水野 奈保美

94



毎度のうめくさでございます。人名は基本敬称略で伏せたり伏せなんだり。シューズやスラックラインを衝動買いしたり週いちジムが定例になって来たり、雪が降ったり風邪ひいたり、城ヶ崎のシーズンが終わったり小川・瑞牆がはじまったり、ちょっと本気出てきたり引っ込んだり。

2月

2/1 城ヶ崎@大山

オーシャン→日蓮

第2週・第3週

2週続けて大雪。加えて久しぶりに本気な風邪に。

2/22 城ヶ崎@ K 田・O 山

オーシャン→日蓮

3月

3/9 城ヶ崎@ O 山 いさりび

まんなかのやさしいやつ TR○? / 右のほうの 5.9TR○ / いさりびライト TR×2

3/15-16 瑞浪@ K 田・O 山

15日: 余裕のよっちゃんTR○/アタックNo1 R×/エースをねらえ TR○

16日: 感激 R離陸出来ずTR多テン/アダム TR×2

3/22-23 瑞浪@大山

22日 晴れ: 秀則コーナー R○/ハッピークラック TR×/感激 TR×/エース R× ぜんぜん登れてないw

23日 晴れ: 秀則コーナー TR○/感激 TR×/アダム TR×2→トップアウト出来ずじまいだったが出だしが少しだけつながってきたよ。刀レースほしいなあ。

3/29 瑞浪@大山 よっちゃんR○/アダムTR×2

3/30 大岩日吉@プリムラ&救助隊チーム

10a○ 10c× 10 d×クラック× 2 ワイド○

※貴重な写真アリ

4月

4/2 江戸川橋

4/5 天王岩@佐藤(森)

奥のクラック / 勉太郎 / ノーリー / ノーリージョイ×3

4/6 日吉 10c・奥 10c クラック 10c OW WH

4/12-13 小川@ O 山、かぶちゃん

4/12 土 はれ 6:00 発

レイバック→蜘蛛の糸×1 寒いので塩川ダムへ。

4/13 日 くもり

かぶちゃんとフェニックス。ところどころ雪が残る。

4/15 平日日吉行ってみるテスト@ O 山

4/20 小川日帰り O 山 セレクション

セレクションの最後のクラックはリードした。小難しかった思い出があるのでかなりドキドキだったけど、たいして難し
くなかった^^

なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記。

— 2月から5月末までいっしょに！ —

93

水野 奈保美

4/24 江戸川橋@ ODA+HYK

手前:赤・中:黄色×・奥:青×・手前:緑× 登れない～

4/26-27 (土・日) 小川@ O 山

26 (土) 晴れ→曇 (寒) 混み具合 80% マット族ばっか

5:30 発→8:15 着 かぶちゃんと合流 レイバック
→ジャックと豆の木 (TR) →カサブランカ 妹岩は取付
きは雪。アプローチは問題なし。

27 (日) 晴れ 8:30 ごろ塩川発

蜘蛛の糸 (TR) × 2。上半のムーブ完成。
風呂→ちょっと事故渋滞→下道、とまあまあ順調に戻る
と、高尾駅の交差点直前で明かりが消えた～停電だ～
真っ暗!!びっくりだよ

4/29 江戸川橋

5月

5/2～5 恒例:猫と行く連休小川キャンプだよ～!

5/2 小川 with お師匠&ちよび 晴れ→くもり

5:30出→9:00ごろ着 テント、タープ、スラックライン、
設置してのんびりしていたらあつという間に12時。13時
杉から

・左岸スラブ: ジャーマン4点 / YMO TR ×

5/3 晴れ

10:39 着の小田を迎えに信濃川上駅へ。暑い! 駅のむ
こうには桜が満開。ナナーズで買い出し。入れ違いに
IW 田さんに会う。

・左岸スラブ@小田、IW 田さん (師匠1回休み): トム
と一緒に / ブラックアンドホワイト

5/4 晴れ

・妹岩@小田、岩田午後からお師匠: カサブランカ。森
さんが上がってきたので、小田は岩田さんにまかせて、
待望の愛情スラブ。

・愛情スラブ

1 本目師匠、プレクリして2 本目かけずに降りてくる

2 本目水野、B2 本目かけられずに下りる

3 本目師匠、B2 本目に人工でかけて下りる

4 本目水野、B2 本目までで下りる

5 本目師匠、B5 本目までかけておいてくる

6 本目水野、B5 本目で降りる

7 本目師匠、回収。

最初はぜんぜん出来なかったけど面白かったよ～! (ボ
ルトは全部で8本) 続けてトライできなかったのが残念。

5/5 曇り→雨

撤収して帰る。小田は IW 田さんにまかせ (まる投げ?)
左岸スラブへ行ったが寒くて1 本で下りてきたそうだ。

5/8 江戸川橋

5/10-11 (土日) 小川山@大山

二人先週富士山登頂でやられていた。調子いいのはワ
タシだけ

1) 蜘蛛糸 TR × 1

2) レイバック→クレージー TR × 1

5/13 江戸川橋 混み混み 奥 赤x2 手前 緑x2

5/15 江戸川橋 まん 中 左 青 赤 黄 奥 赤x2

5/17 天王岩@小田・森

小田を武蔵五日市10:10ピックアップ。

岩場は混んでいました。

・下:10 aの右 ノーリー R○ (あぶなかった～) ノーリー
ジョイ TR × 2・上: 涅槃の風 R○ 2

5/18 天王岩@森

ノーリージョイ TR × 2

5/21 江戸川橋 真ん中 右 青 5.9 左 青 5.8 手前 緑 × 1 → 2 回目○ 祝 3 回目×

5/24 瑞牆山十一面末端壁@大山小俣 6:00 発

・調和の幻想 1P・T&T TR × 2○

今シーズン初瑞牆。他のクライマーは調和マルチパー
ティ× 2 がいたのみで貸切状態。塩川ダム泊

5/25 末端→天王岩@森

O 山・O 俣両氏の調子とモチベーションが非常に悪い。
朝ごはん食べても GDGDGDGD 言っているので思い切って
帰る。11:30 ごろ西八王子着、すぐに支度をして天王岩へ。
13:30 に現地くらいかな。

・ノーリージョイ TR × 4

核心の入口のブーム × 2

その上からトップアウト × 2

山行一覧(1) 2014年1月11日～3月9日

No.	山行日	山域	ルート	参加者	区分
3498	1月11日	筑波	宝塚山	岡	写真撮影
3499	1月17日	会津	達沢不動滝	岡	写真撮影
3500	1/18～19	甲信	湯川	佐藤・他多	アイス
3501	1月19日	湯河原	幕岩	桜井・西本	フリー
3502	1月19日	富士	双子山	北原	雪山
3503	1月19日	道志	景信山	山里・初鹿・水野	餅ハイク
3504	1/23～24	八ヶ岳	中山峠・硫黄岳	岡	写真撮影
3505	1月25日	御坂	千波の滝	佐藤・他多	アイス
3506	1月25日	八ヶ岳	赤岳南峰リッジ	小堀・初鹿	バリ
3507	1月29日	筑波	宝塚山	岡	写真撮影
3508	1月31日	八ヶ岳	醤油樽の滝	岡	写真撮影
3509	2/1～2	会津	青葉の岩場	佐藤・他多	フリー
3510	2月1日	御坂	千波の滝	岡	写真撮影
3511	2月1日	妙高	滝沢尾根	北原・他	山スキー
3512	2月9日	奥武蔵	関八州見晴台	平	ハイク
3513	2月11日	甲信	西沢溪谷東沢	小堀・初鹿	アイス
3514	2/11～12	北ア	八方尾根往復	岡	写真撮影
3515	2月13日	信越	戸隠・浅間山	岡	写真撮影
3516	2月16日	道志	八王子城山	初鹿・平・佐藤	雪山
3517	2月22日	西上州	赤城地藏岳	岡	写真撮影
3518	2月22日	伊豆	城ヶ崎	水野・他2	フリー
3519	2月23日	丹沢	塔ノ岳	平・他1	ハイク
3520	2月23日	富士	石割山	北原	雪山
3521	2月25日	筑波	筑波山	岡	写真撮影
3522	3/1～2	会津	磐梯山猫魔ヶ岳～赤埴山	初鹿・他1	山スキー
3523	3月/1日	甲信	岩根山荘	平・佐藤・他	アイス
3524	3/8～9	伊豆	城山	佐藤・他	フリー
3525	3月8日	甲信	茅ヶ岳	小堀・初鹿	雪山
3526	3月9日	伊豆	城山	西本・桜井	フリー
3527	3月9日	八ヶ岳	赤岳	平・他1	雪山
3528	3月9日	道志	高尾山	初鹿	雪山

山行一覧(2) 2014年3月9日～4月24日

No.	山行日	山域	ルート	参加者	区分
3529	3月9日	道志	百蔵山	北原	雪山
3531	3月13日	上越	谷川岳(登山指導センター)	岡	写真撮影
3532	3/14～15	東北	那須茶臼岳(大丸温泉・峰の茶屋)	岡	写真撮影
3533	3月15日	八ヶ岳	南沢大滝	小堀・佐藤	アイス
3534	3/15～16	岐阜	瑞浪	水野・他2	フリー
3535	3月16日	奥多摩	カーネルロック	西本・桜井	フリー
3536	3月16日	富士	十二ヶ岳	平・他1	雪山
3537	3月21日	奥武蔵	日和田山	小田・他1	岩トレ
3538	3/21～22	南ア	甲斐駒ヶ岳(七丈小屋まで)	小堀・佐藤	雪山
3539	3/21～23	上越	大源太山(ヨセ沢ノ頭まで)	初鹿・平	バリ
3540	3/21～24	上越	尾瀬至仏山ほか	北原・他	山スキー
3541	3/22～23	岐阜	瑞浪	水野・他1	フリー
3542	3/28～29	八ヶ岳	北横岳・牛首山	大坪・初鹿	雪山
3543	3月29日	伊豆	城山	小堀・佐藤	フリー
3544	3月29日	岐阜	瑞浪	水野・他1	フリー
3545	3月31日	伊豆	伊東大平山	初鹿・他2	ハイク
3546	4月1日	上越	谷川岳一ノ倉沢	岡	写真撮影
3547	4月5日	奥多摩	天王岩	水野・佐藤・他	フリー
3548	4/8～9	上越	谷川岳天神尾根	岡	写真撮影
3549	4月12日	奥多摩	天王岩	佐藤・他	フリー
3550	4/12～13	甲信	小川山	水野・他	フリー
3551	4/12～13	上越	平標山・蓬沢上部	初鹿・山里	山スキー
3552	4/12～13	会越	会津駒ヶ岳	平・他1	雪山
3553	4月13日	奥多摩	越沢バットレス	桜井・西本	岩トレ
3554	4月13日	西上州	裏妙義ロックガーデン	佐藤・他多	救助訓練
3555	4月13日	筑波	宝塚山	岡	写真撮影
3556	4月16日	奥武蔵	武蔵横手～物見山	初鹿	トレラン
3557	4月19日	奥多摩	カーネルロック	小田・他	フリー
3558	4/19～20	上越	クロガネノ頭東尾根	初鹿・平	バリ
3559	4/19～20	伊豆	城山	西本・佐藤	フリー
3560	4月20日	甲信	小川山	水野・他	フリー

山行一覧(3) 2014年4月25日～5月18日

No.	山行日	山域	ルート	参加者	区分
3561	4/23～24	北ア	立山・室堂山	岡	写真撮影
3562	4月25日	北ア	鹿島槍・黒沢高原	岡	写真撮影
3563	4月26日	西上州	妙義山	岡	写真撮影
3564	4月26日	伊豆	城山	佐藤・小田	フリー
3565	4月26日	上越	上州武尊山	平・他1	雪山
3566	4月26日	志賀	横手山～草津峠	大坪・初鹿	山スキー
3567	4/26～27	甲信	小川山	水野・他	フリー
3568	4月27日	奥武蔵	聖人岩	桜井・西本	フリー
3569	4月28日	志賀	笠ヶ岳	大坪・初鹿	山スキー
3570	4月29日	上越	鹿俣山	初鹿・市瀬	山スキー
3571	4月29日	東北	月山	北原・他	山スキー
3572	5/2～5	甲信	小川山	水野・小田(3～5)・他	フリー
3573	5/3～4	上越	尾瀬(山の鼻)	岡	写真撮影
3574	5/3～4	伊豆	城山	桜井・西本	フリー
3575	5/3～4	北ア	鹿島槍北壁(天狗ノ鼻まで)	小堀・佐藤	バリ
3576	5/3～5	会越	城郭朝日山	平・他1	雪山
3577	5/3～6	上越	尾瀬 平ヶ岳～景鶴山	初鹿・他1	山スキー
3578	5月4日	道志	陣馬山	北原	ハイク
3579	5月5日	甲信	太刀岡山	桜井・西本	フリー
3580	5月6日	北ア	小日向山	北原・他	山スキー
3581	5月10日	北ア	針ノ木岳マヤクボカール	北原・他	山スキー
3582	5月10日	東北	安達太良山・沼の平	岡	写真撮影
3583	5/10～11	甲信	小川山	佐藤・小田・平	フリー
3584	5/10～11	甲信	小川山	水野・他	フリー
3585	5月11日	奥多摩	天王岩	桜井・西本	フリー
3586	5月12日	奥多摩	青梅丘陵	初鹿	トレラン
3587	5月17日	北ア	乗鞍岳	北原・初鹿・市瀬	山スキー
3588	5月17日	奥多摩	天王岩	水野・小田・他	フリー
3589	5/17～18	甲信	小川山	佐藤・他多	岩
3590	5月18日	奥多摩	天王岩	水野・他	フリー

他の山の会の古い人が、先日ネパールに行ってきたという。「よかったですよ」と問うと「汚くて」とのたまった。我々がネパールに行く前にも、年配の人に、「汚いからマスク持って行ったほうがいいよ」と言われたが、実際のところ全く汚いとは思わなかった。何やら懐かしい、一昔前の東京じゃん。年寄りになればなるほど、過去は美しいのか？ 東京って、そんなに綺麗だった？ 昔は良かったか。あーやだやだ。(H)

このところ故障が増えた。持病の頸椎症は寒くなると毎年やってくるが、大倉尾根を駆け下りて膝が痛くなったり、室内壁に行って指関節を痛めたり、4月の藪コギでは前腕の筋肉が炎症をおこしたとかで腫れ、左手で箸を使う破目に。もうあんまり無理はできないなあ。そんなことを言い訳に、5月連休は久しぶりに縦走を楽しんだ。登山のスタイルも穏やかな方向にシフトしそうな予感。(T)

最近いい調子の方々が多く、ちょいとこれはマズイな、と感じ通いはじめてしまった T-wall、知っている人ももういないし、気兼ねなくしょぼいトライをしているうちに、少しづつ持久力がついてきたよ。そのかわり指は慢性炎症もちとなってしまう。沢山登って美味しく食べる、が一番回復が早いと思うこのごろ。あ、あと、靴のネタは私的にはコレがおすすめとか、お気に入りとかのウンチク・前向きのネタのつもりだったのに、いつの間にか【思い出】バージョンとなり、なんか後ろ向きっぽいのが気になる。まあ、みんな若くないし ^^ 今度は使えるネタにしようよ！(M野)